



板一中だより

2025年5月23日



学びのエリア7年生：141名 8年生：119名 9年生：117名 計377名

板橋区小中一貫教育「板一中小中一貫学びのエリア」（板二小・板六小・板七小・板一中）

全国学力・学習状況調査を読み解く

伊藤 聡

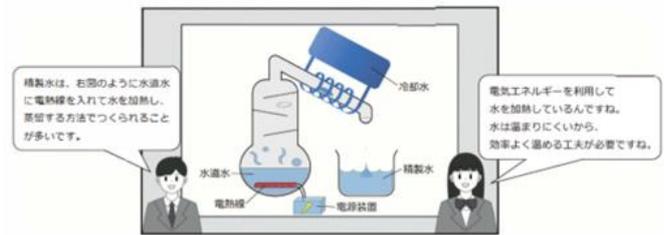
日本全国の小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査が先月実施されました。今回の結果は7月から8月に公表される予定です。これまでは国語と数学の筆記試験が基本となっていました。今回からは順次デジタル端末を使って質問と回答をオンラインで行う方式（CBT）が導入され、中学校の理科が全国で分散実施されました。文科省は今後、CBTを他教科にも広げる方針で、多様な出題と解答からより実態分析を図ることを目的としており、来年度は英語、2027年度には全面実施を予定しています。

まずはタブレットで回答した理科の問題についてです。やはり紙面では実施できない様々な問題が出題されていました。アニメが2カ所、動画は8つ用いられていました。回答の方法も正解をクリックする方式や図などをスライドさせ正解を作り出すものなどがありました。選択する

だけではなく、単語や文章を文字で入力して回答するものもあるため、自分の考えをスムーズに正しく入力する力も必要とされます。また調査中には、紙面の時のように書き込みができないことに不便さを感じている姿も見られました。例えば、計算するために机上の紙に式を書き写し計算したり、気になるところに印が付けられなかったり、消去法で考えるときに×が付けられなかったりするために、メモをするなどして答えるための補助的な作業をしている様子も見られました。いずれにしても、CBTが他の場面でも用いられていくことを考えると、このような形式に慣れることは必要になると思います。

次に国語の問題です。職場体験でお世話になったお店へのお礼の手紙についての出題がありました。推敲（すいこう）をするに当たり、条件を満たして、どの部分をどのように修正するのか、自分の考えを問われる問題です。まずは、問題

2025年度	中学校の理科
26	中学校の英語（4技能）
27	小学校の国語・算数 中学校の国語・数学
28	小学校の理科



【手紙の下書きの一部】

さて、昨日（先日は）、私たちの職場体験活動に協力をしてくれて（ご協力ください）ありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

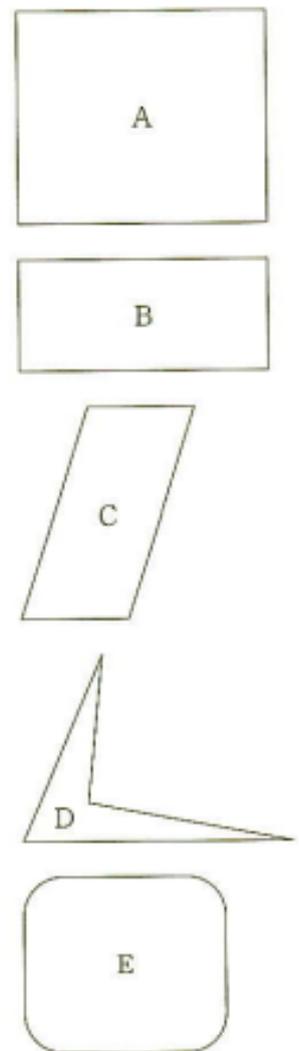
文にある「推敲を重ねようとしている」という状況が、頭の中に再現できていたでしょうか。推敲とは、文章をよりよい表現になるように考えて、書き直すことです。そして直している途中の文章が【手紙の下書きの一部】ということになります。この問題の速報値をみると1/5が無解答だったため、質問自体の意味が分からなかったのではないかと想像します。今後、知っている言葉を増やすことも意図的に行っていく必要がありますね。そして、次に気になったのは、その間違い方です。回答した人の約半分が、残念ながら間違いでした。条件に書かれている「修正したい部分を1つ選ぶこと」を満たしていないパターンが多いのです。焦っていたのか、勝手に思い込んでいたのか・・・複数ある間違っている箇所や違和感のある場所を修正している解答用紙が散見されました。今後に向けた経験にして欲しいですね。

1から9までの数の中から素数をすべて選び・・・

数学の問題では、最初の問題の正解者が3割程度だったのが残念でした。「素数」がどのような数字なのかを頭に再現できなかったためだと思われます。教科書には、「素数とは、1とその数自身の他に約数がない数である。ただし、1は素数ではない。」とあります。学習したのは7年生の最初の頃ですが、改めて教科書に記載されている内容を、自分の頭の中で再現できるようになっているかを確認すること。そして、そういった内容を復習することが、特に9年生は大切になります。

さて、頭の中に再現できるかどうかについてももう少し考えてみましょう。「次のAからEの中で四角形はどれに当たるでしょうか。」正しく選べるかどうかの境は、この「四角形」という言葉の意味に関わってきます。私たちの日常語彙としての認識では「4つの出っ張った部分がある形」が一般的ではないでしょうか。一方で算数・数学の専門用語としてはどのように定義されているかみると「4本の直線で囲まれた形」とされています。「素数」、はほぼ授業の中でしか出会わない言葉なので、定義＝意味となります。しかし「四角形」のような日常的にも使い、専門用語としても使うような言葉は、その意味に違いがないかどうかには注意することが必要ですね。

話し合いをしたり、資料を読み解いたりする日常的な学習活動では、「教科書などの言葉の意味を何となく分かったつもりにしないこと」が大切です。特に教科書での重要語句などの専門用語はその定義などに基づいて、言葉が表す具体的な状況等を頭の中で再現できるかを確認することが大切です。書かれたことに反することがないかを頭の中で再現できるようになることが「分かった」につながる一歩になります。書かれたことに同定（同一である）することになります。読み上げた文字を自分がどのように認識しているかを認識してみたいかがでしょうか。



- 専門用語 学習の特定の領域・内容
- 学習語彙 学習の様々な場面
- 日常語彙 生活の様々な場面